



### <宿泊の申込みについて>

第10回大会は広島にて行われますが、交通機関は各自でお選びください。新幹線・飛行機・船など多彩な交通機関があります。

宿泊は会場となる広島ガーデンパレスに40名分の予約をしてありますので、学会事務局宛（佐藤治夫）にお申し込みください。定員になりしだい締め切らせていただきます。

広島ガーデンパレスは広島駅から至便の地にありますが、繁華街（お好み村など）へはタクシーの利用となります。

終了後のツアーは、今回は特に計画致しませんが、アドバイスなど差し上げることができるかと存じますので、お気軽に事務局の方へご相談ください。

### ▲訃報

本会分科会担当理事の石原強氏は昨春以来病を得て、同氏の本務校杏林大学医学部付属病院（三原市）に入院加療中のところ惜しくも12月13日逝去された。ここに会員一同と共に謹んで哀悼の意を表する。

英米文化学会会長 勝浦吉雄

### 石原強先生を偲ぶ

英米文化学会副会長 深井宏一

大学に入学して間もない頃、御自分から申し出て、ニコニコしながら私にノートを買って下さったのが石原強さんでした。古本屋で見つけたテキストを買うのもやっと、といった貧乏学生だった私がバイトに追われ、授業にも満足に出られなかったのを見かねたのでしょう。石原さんは誠に優しい人でした。教職課程の科目をとっておくように勧めて下さったのも石原さんだったことを思うと、今日曲りなりにも今の職にあるのも一つには石原さんのお蔭と思います。

卒業後、石原さんは埼玉の県立高校で熱心な先生として名声を得、家を飛び出して東京でくすぶっていた私にも先生の研究会での御活躍ぶりなど伝わってきていました。私がこの学会の前会長大島良行氏や現会長勝浦吉雄氏その他の方々のお蔭で現在の職につきましてから、私なりに石原さんへの恩返しのお気持ちも働いたのだと思いますが、先生をこの会に御紹介致しました。先生はこの会を大変気に入って下さり、奥様共々入会され、大学で教鞭をとられるようになり、そして本会の役員としても活躍して下さいました。

昨年夏、先生の病室に参りましたのは誠に蒸し暑い日でした。にも拘らずまた手術前というのに先生はお元気で、家内が、早くお暇せねばと何度も私に注意したのですが、先生の御話はとめどなく、楽しく、勉強の話やら、はてはバラ作りの極意まで伺い、私としてはうかつにも安心して辞去しました。それがこのようなことにならうとは誠に残念です。

しかし、お二人のお子様立派に成長されて居られることが私にはせめてもの慰めです。心から先生の御冥福をお祈り申し上げます。

【事務局からのお知らせ】

<訂正>

高取清先生の勤務先が、先号で「文京女子短期大学」となっていましたが「文京女子短期大学」が正しい名称でした。お詫びして訂正いたします。

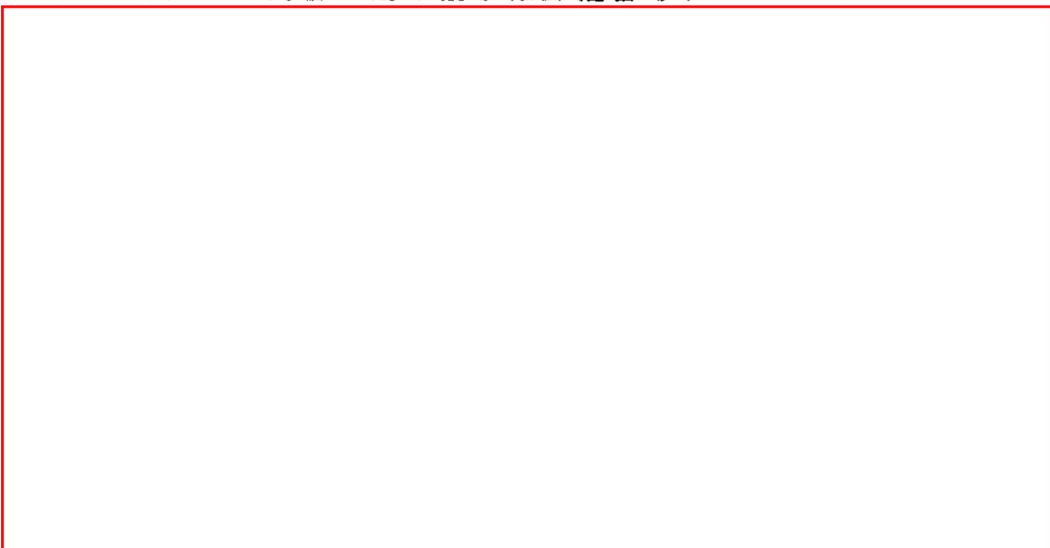
<住所の変更>

井上輝伸 154 世田谷区三軒巻 2-54-3-304  
03-3422-7289 FAX 7689

<勤務先変更>

八村伸一 神戸女子大学  
新妻絃 都立東村山高等学校  
0423-92-1235

<新入委員> (氏名の後の数字は郵便番号)



<会員著書>

- 1 八村伸一著：Studies in English Usage and Education and An Inspection Tour Sketch ISEKI PUBLISHING HOUSE(井関書店) 1991年4月
- 2 大石五郎(共著)：Communicative College English 英潮社
- 3 後藤正次著：『日本英語教育史考』(英文)、ニューカレントインターナショナル、平成3年2月
- 後藤正次編著：『ライシャワ博士研究』(1)、啓文社、平成3年5月  
『ライシャワ博士研究』(2)、啓文社、平成3年5月  
『新聞英語研究』、新東洋出版、平成3年6月  
『カーソン研究』(1)、新東洋出版、平成3年6月  
『カーソン研究』(2)、新東洋出版、平成3年6月  
『スチーブソン研究』(1)、啓文社、平成3年7月  
『スチーブソン研究』(2)、啓文社、平成3年7月
- 後藤正次著：『英語音声学研究』、大阪教育図書、平成3年9月
- 後藤正次編著：『時事英語研究序説』(1)、山口書店、平成3年10月
- 後藤正次著：『英語表現法研究』、大阪教育図書、平成3年10月

【分科会委員会からのお知らせ】

◆第一分科会からの報告

吉田俊実

<第2回分科会会合>

日時：12月8日3時より

場所：談話室滝沢（新宿店）

出席者：君塚淳一、銀川啓介、五味田幸夫、相良英明、須田理恵、吉田俊実

前回に続き、活動目標を翻訳、共同執筆におくことを確認したが、その前段階としてそれぞれが興味を持っている事柄、あるいは研究課題としたい事柄についての勉強会を持つことで意見が一致した。具体的研究課題として、出席者から次のような課題が出された。

須田・・・精神分析（ユング、フロイト）

五味田・・・精神分析・文化人類学

君塚・・・民俗学・フェミニズム

佐藤・・・精神分析

銀川・・・フェミニズムあるいはマイノリティの視点からの精神分析

相良・・・精神分析

吉田・・・フェミニズム（J・ラカンの研究）

以上の結果、精神分析に興味の一致がみられ、当面は精神分析を中心に勉強会を持つことになった。

次回会合では、それぞれ読んでみたい論文のコピーを用意してくることになった。

<第3回分科会会合>

日時：1月11日3時より

場所：談話室滝沢（新宿店）

出席者：五味田幸夫、相良英明、佐藤成男、吉田俊実

出席者はそれぞれ興味ある資料を持参し、課題として取組む研究対象を検討。精神分析を概観する意味で、ラカンを中心に論じた下記の論文を当分分科会の課題にすることで合意。早速、その一部を次回から読み始めることとする。

次回研究課題："Lacan and the Discourse of the Other" by Anthony Wilden

(a commentary on his translation of Speech and Language in Psychoanalysis by Jacques Lacan.)

◆ 次回会合予定 2月29日（日）2時より

「滝沢」（新宿店）にて

編集発行 英米文化学会編集委員会

相良英明、中村豪、池田広子、宮崎敬子、山根正弘、宮本正和

発行責任者 〒158 世田谷区深沢2-4-9 相良英明